



# ハム太と作るC++ライブラリ1



-STL編-

haseham

## 本書について

---

- ・「**STL**」は、C++でよく使う「**List**」などの標準的なデータ構造を、「テンプレートクラス」として実装したライブラリである。

(データ構造というと難解に聞こえるが、これは「**コンテナクラス**」のことである)

- ・「テンプレートクラス」は、格納する値のデータ型を抽象化したクラスであり、例えば、**class Matrix44< T >** といったテンプレートクラスを実装しておけば、

```
Matrix44< float > m1;
```

```
Matrix44< double > m2;
```

といった具合に、格納する値のデータ型を指定するだけで使いまわすことができるため、同じ処理を何度も書かずに済み、修正も比較的容易である。

- ・しかしその一方で、読みにくいコードになりがちであり、また、デバッグ時のエラーコードも意味不明であることが多い。
- ・筆者もこれを書くにあたって、大変な苦勞を強いられた。
- ・その手間を考えれば、少なからず多くの皆さんにとって本書はきっと有意義なものとなるに違いない。
- ・ネーミング規則については、ハンガリアン記法は使用せず、**Java**や**.NET**に慣れ親しんだ皆さんにもわかりやすいものとなっている。
- ・特に追加箇所は無いし、テストは行なっているが、バグが無いとは言い切れない。
- ・そのため、利用に際しては、自己責任でお願いしたい。
- ・「そもそも、**C/C++**の構文がわからない」という方は、まず「**構文編**」を読んで頂きたい。↓

<http://p.booklog.jp/book/74354>

## STLの概要

---

- ・「**STL**」には、様々な**コンテナ**が含まれているが、そのすべてを網羅することは大変な手間であるし、「概観をわかりやすく伝える」という本書の意図に反する。
  - ・込み入った話は、洋書の訳本を読んでいただければと思う。
- 

### 【本書で紹介するコンテナ】

- ・「**std::vector**」 ... 可変長配列。宣言後に要素数を変更できる。  
また、あらかじめ多めに確保するように指定しておくことで、リサイズ時のメモリの再確保を減らす事ができる。
- ・「**std::list**」 ... 双方向リンクドリスト。各要素は、直前と直後の要素への参照を持つ。  
前後の要素を相互にリンクさせることによって、鎖(くさり)のように連なっている。
- ・「**stdext::hash\_map**」 ... ハッシュ表。配列のような「要素番号」のみならず、「要素名」でも参照できるため、「辞書」ともいわれる。  
非常に便利である反面、大量のメモリを要するため、注意が必要である。  
「**std::map**」とは異なり、ハッシュアルゴリズムで駆動するため、  
実行速度では有利である。
- ・「**std::stack**」 ... スタックは、たまった書類のように、上へ上へと積み上げていく構造をしている。
- ・「**std::queue**」 ... キューは、一方通行のトンネルに例えられることが多い。  
トンネルの入口から、新規の要素を詰め込み、出口で取り出して削除する。
- ・「**std::deque**」 ... デキューでは、両端から要素を詰め込む。どちらもが入口であり、出口である。

- ・ 「**std::auto\_ptr**」 ... 1つのポインタを格納し、使用されなくなった時点で自動的に解放する。
- ・ 「**std::allocator**」 ... 各コンテナクラスの内部で、メモリの確保を行なっているクラスである。  
派生させて、処理を上書きすることで、処理速度が向上する。
- ・ 「**std::iterator**」 ... イテレーターは、**STL**におけるポインタである。  
リサイズなどによって、要素のアドレスが移動した場合は、無効となる。
- ・ 「**std::wstring**」 ... ワイド文字配列。
- ・ 「**std::bitset**」 ... ビットフラグ。

## 【vector】 ( 可変長配列 )

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_VECTOR_H_
```

```
#define _STL_VECTOR_H_
```

```
// アロケータクラスのヘッダ ファイルをインクルードしておく。
```

```
#include "STL_Allocator.h"
```

```
#include <vector>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL
```

```
{
```

```
// -----
```

```
// 【使用例】
```

```
// STL::CVector< int >* p_v = new STL::CVector< int >();
```

```
//
```

```
// p_v->Add( 111111 );
```

```
// p_v->Add( 222222 );
```

```
// p_v->Add( 333333 );
```

```
//
```

```
// int value0 = p_v->GetValue( 0 );
```

```
// int value1 = p_v->GetValue( 1 );
```

```
// int value2 = p_v->GetValue( 2 );
```

```
//
```

```
// delete p_v;
```

```
// std::vector< int, STL::CAllocator< int > > v1;
```

```
//
```

```
// v1.insert( v1.end(), 100 );
```

```
// v1.insert( v1.end(), 200 );
```

```

//
// std::vector< int, STL::CAllocator< int > > v2;
//
// v2.insert( v2.end(), 300 );
// v2.insert( v2.end(), 400 );
//
// v1 = v2; // v2 のすべての要素が、v1 にコピーされる。

// =====
// 可変長配列クラスの定義 ( std::vector のラッパー )

// ・ 指定要素へのアクセスや、両端への追加、削除は、定数時間で完了する。
// ・ その反面、中間地点の要素を検索したり、挿入するには線形時間かかる。
// ・ コンストラクタでキャパシティを指定するよりも、
// デフォルトコンストラクタで宣言した後で、キャパシティを設定した方が効率が良い。

// ※リサイズを行うと、別のメモリ領域が確保され、
// 要素値が移動するので、アドレスが変わってしまう。
// ( ポインタ変数に格納している以前のアドレスが、無効となるのと同じ )

// ※要素数は、拡張はできるが、縮小はできない。

// ※要素が存在しない index やイテレーターを渡した場合は可る。
// ( 速度を優先するため、STL側でも範囲判定はあまり行っていない )

```

```

template<typename TValue>

```

```

class CVector

```

```

{

```

```

protected: // public でも OK。

```

```

// -----<OK><テスト済み>

```

```

// メンバ

```

```

std::vector< TValue , CAllocator< TValue > > vector; // ベクター本体。

```

```
public:
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// ベクター本体の型
```

```
typedef typename std::vector< TValue , CAllocator< TValue > > InsideType;
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// イテレーター
```

```
    // 通常のイテレーター (ランダムアクセス)
```

```
typedef typename std::vector< TValue, CAllocator< TValue > >::iterator Iterator;
```

```
    // 逆順イテレーター
```

```
typedef typename std::vector< TValue, CAllocator< TValue > >::reverse_iterator RevIterator;
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// コンストラクタ
```

```
CVector( void )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// デストラクタ
```

```
~CVector( void )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定値で初期化された指定数の要素】で初期化する。( assign() )
```



```

inline void InitByValue( TValue value_, const size_t count_ )
{
    vector.assign( count_, value_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲の要素値】で初期化する。          ( assign() )

// dest_vector を、src_vector[5]、[6]、[7] で初期化する場合は、
//
// dest_vector.InitByRange( src_vector.Getltr( 5 ), src_vector.Getltr( 8 ) );

inline void InitByRange( Iterator src_start_itr_, Iterator src_end_itr_ )
{
    vector.assign( src_start_itr_, src_end_itr_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexのイテラ】を返す。

// ※戻り値のイテラを、参照にしていけないのには理由がある。
// このクラスがローカル変数として宣言された場合、
// スタック領域のアドレスを返してしまうため、わるからである。

inline Iterator Getltr( const size_t index_ )
{
    return ( vector.begin() + index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【ベクタ-】を返す。

inline InsideType& GetVector( void )
{
    return vector;
}

```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【ベクター】を格納する。
```

```
inline void SetVector( InsideType& vector_ )
```

```
{
```

```
    vector = vector_;
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を返す。 ( size() )
```

```
inline size_t GetCount( void )
```

```
{
```

```
    return vector.size();
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最大要素数】を返す。 ( max_size() )
```

```
// ※これは「size_t」の最大値。 ( 「size_t」は、32bitシステムでは「unsigned int」 )
```

```
inline size_t GetMaxCount( void )
```

```
{
```

```
    return vector.max_size();
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を変更する。 ( resize() )
```

```
// ・新しく追加された要素の値は、0クリアされている。
```

```
inline void Resize( const size_t length_ )
```

```
{
```

```
    vector.resize( length_ );
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を変更し、【追加された要素】を、指定値で初期化する。( resize() )
```

```
inline void ResizeEx( const size_t length_, TValue value_ )
```

```
{
```

```
    vector.resize( length_, value_ );
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最初の要素の値】を返す。 ( front() )
```

```
inline TValue GetFirstValue( void )
```

```
{
```

```
    return vector.front();
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最後の要素の値】を返す。 ( back() )
```

```
inline TValue GetLastValue( void )
```

```
{
```

```
    return vector.back();
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定indexの要素値】を返す。 ( 値 = vector[i] )
```

```
inline TValue GetValue( const size_t index_ )
```

```
{
```

```
return vector[ index_ ];
```

```
// vector.at( index_ ) の場合は、範囲外のindexに対して、out_of_range例外を叩く。
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定indexの要素】に【指定値】を格納する。 ( vector[i] = 値 )
```

```
void SetValue( const size_t index_, TValue value_ )
```

```
{  
    vector[ index_ ] = value_ ;  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素】 を末尾に追加する。 ( push_back() )
```

```
inline void Add(TValue value_ )
```

```
{  
return vector.push_back( value_ ); // 追加する。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定イテレーターの要素】 に、 【要素】 を挿入し、 【挿入位置のイテレーター】 を返す。 ( insert() )
```

```
// ※指定したイテレーターの要素に、指定値が格納される。
```

```
// ※指定するindexは、AddやResizeで拡張された範囲を超えると叩る。
```

```
// ※逆順イテータは受け付けない。
```

```
inline iterator Insert( iterator itr_, TValue value_ )
```

```
{  
return vector.insert( itr_, value_ ); // 挿入する。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定イテレーターの要素】 に、 【指定数の要素】 を挿入する。 ( insert() )
```

```
// ※逆順イテータは受け付けない。
```

```
inline void InsertByValue( iterator itr_, TValue value_, const size_t count_ )
```

```
{  
    vector.insert( itr_, count_, value_ ); // 挿入する。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

//【指定index】に、【指定範囲の要素】を挿入する。 (insert())

//※逆順イテータは受け付けない。

// vector1 の [1] に、 vector2 の [5]、 [6]、 [7] を挿入する場合は、

//

// vector1.InsertByRange( vector1.GetItr(1), vector2.GetItr(5), vector2.GetItr(8) );

```
inline void InsertByRange( iterator dest_itr_, iterator src_start_itr_, iterator src_end_itr_ )
```

```
{
```

```
    vector.insert( dest_itr_, src_start_itr_, src_end_itr_ ); // 挿入する。
```

```
}
```

// -----<OK><テスト済み>

//【指定index】に、【要素】を挿入し、【挿入位置のイテータ】を返す。(insert())

//※指定したindexの要素に、指定値が格納される。

//※指定するindexは、AddやResizeで拡張された範囲を超えるとわる。

```
inline iterator InsertAt( const size_t index_, T value_ )
```

```
{
```

```
return vector.insert( vector.begin() + index_, value_ ); // 挿入する。
```

```
}
```

// -----<OK><テスト済み>

//【指定イテータの指す要素】を削除し、【その次の要素のイテータ】を返す。(erase())

```
inline iterator Remove( iterator itr_ )
```

```
{
```

```
    return vector.erase( itr_ );
```

```
}
```

// -----<OK><テスト済み>

//【指定範囲の要素】を削除し、【その次の要素のイテータ】を返す。(erase())

//※逆順イテータは受け付けない。

```

// vector1 の [5]、[6]、[7] を削除する場合は、
//
// vector1.RemoveByRange( vector1.GetItr(5), vector1.GetItr(8) );

inline Iterator RemoveByRange( Iterator start_itr_, Iterator end_itr_ )
{
    return vector.erase( start_itr_, end_itr_ ); // 削除する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexの要素】を削除する。                ( erase() )

inline Iterator RemoveAt( const size_t index_ )
{
    return vector.erase( vector.begin() + index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【最後の要素】を削除する。                    ( pop_back() )

inline void RemoveLast(void)
{
    vector.pop_back();
}

// -----<OK><テスト済み>
// クリアする。                                ( clear() )

inline void Clear(void)
{
    vector.clear();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【別のインスタンス】と内容を入れ替える。      ( swap() )

inline void Swap( CVector<TValue>& vector_ )

```

```

{
    vector.swap( vector_.GetVector() );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【内部的に確保される要素数】を返す。          ( capacity() )

// ・未設定だと、要素数が設定されている。

inline size_t GetCapacity( void )
{
    return vector.capacity();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【内部的に確保される要素数】を変更する。      ( reserve() )

// ※ベクターは、内部的にメモリ領域を多めに確保していて、この値は、その際の要素数。
// この値を多めに見積もっておけば、要素数が拡張された際に、
// 再確保&lt;math>2^{\circ}</math>-の回数が減ることが期待できる。
// ・この値は、vector::capacity()で取得できる。
// ・多すぎる場合は、vector::shrink_to_fit()で切り詰めることができる。

inline void SetCapacity( const size_t capacity_ )
{
    vector.reserve(capacity_ );
}

// -----
// 【内部的に確保されている要素数】を切り詰める。( shrink_to_fit() )

// ※さいきん追加されたらしく未定義。

//inline void FitCapacity(void)
//{
//    vector.shrink_to_fit();
//}

```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【最初の要素のイテラタ】を返す。 ( begin() )
```

```
// int value = *itr; // ふつうに最初の要素値が返る。
```

```
inline Iterator GetFirstltr( void )
{
    return vector.begin();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【最後の要素のイテラタ】を返す。 ( end() )
```

```
// int value = *itr; // ※範囲外のポインタなので、アクセス違反エラーが出る。
```

```
// int value = *(itr-1); // ※最後の要素値。(なぜか逆方向に進めてしまう)
```

```
inline Iterator GetLastltr( void )
{
    return vector.end();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 逆順ループ時の【最初の要素([count-1])のイテラタ】を返す。( rbegin() )
```

```
// for ( Revltrator itr = v.rbegin() ; itr != v1.rend(); itr++ )
```

```
// {
//     int value = *(itr);
// }
```

```
// 要素数が3の場合、
```

```
//
```

```
// int value = *( itr ); // 要素[2]の値が返る。
```

```
// int value = *( itr - 1 ); // 要素[1]の値が返る。
```

```
// int value = *( itr - 2 ); // 要素[0]の値が返る。
```

```
inline Revltrator GetFirstltr_Rev( void )
```



```

{
    return vector.rbegin();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 逆順ループ時の、【最後の要素([0])のイテレータ】を返す。 (rend())

// 要素数が3の場合、
//
// int value = *( itr - 1 ); // 要素[0]の値が返る。
// int value = *( itr - 2 ); // 要素[1]の値が返る。
// int value = *( itr - 3 ); // 要素[2]の値が返る。

// ※ *itr は構文エラー。
// ※ *(itr) は範囲外のポインタなので、アクセス違反エラーが出る。

```

```

inline RevIterator GetLastItr_Rev( void )

```

```

{
    return vector.rend();
}

// -----
// #####
// 演算子のオーバーロード
// #####
// -----<OK><テスト済み>
// TValue value = instance[ index_ ]

// ※ int v1 = (*p_vector)[0]; これはできるが、
//   (*p_vector)[0] = 10; これはできない。
//   *p1 = *p2; これはOK。

```

```

inline TValue operator[] ( const size_t index_ )

```

```

{
    return vector[ index_ ];
}

```

```

// -----<OK><テスト済み>
// instance = CVector

inline void operator=( CVector<TValue>& vector_ )
{
vector = vector_.GetVector();
}

// -----<OK><テスト済み>
// bool result = ( instance == CVector )

// ※要素値の総和が同値ならTRUE。

inline bool operator==( CVector<TValue>& vector_ )
{
return ( vector == vector_.GetVector() );
}

// -----<OK><テスト済み>
// bool result = ( instance != CVector )

inline bool operator!=( CVector<TValue>& vector_ )
{
return ( vector != vector_.GetVector() );
}

// -----

}; // end class

}; // end namespace

// -----

#endif

// -----

```

// std::vector<bool> は、特別仕様となっており、以下のメソッドが使用できる。

// vector1.flip(); // すべての要素の論理値を、反転させる。

// vector1[i].flip(); // 要素[i]の論理値を、反転させる。

// vector1[i] = true; // 要素[i]に、trueを代入する。

// vector1[i1] = vector1[index2]; // 要素[i1]に、要素[i2]を代入する。

// ・ビットフラグをbool値として使用しているため、

// メモリサイズは、通常の1/8のサイズに抑えられている。

## 【allocator】 (メモリ確保の最適化)

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_ALLOCATOR_H_  
#define _STL_ALLOCATOR_H_
```

```
#include<memory>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL
```

```
{
```

```
// =====  
// アロケータ - クラスの定義 ( std::allocator の派生クラス )
```

```
// ・ベクタなどのメモリを確保する処理には、汎用化するための処理が含まれている。  
// この部分を上書きして特化すると、インスタンス化時の実行速度が向上する。
```

```
// 詳細はこちら↓
```

```
// http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/vstudio/5fk3e8ek.aspx
```

```
// ※要素が存在しないindexやイテレータを渡した場合は可る。
```

```
// ( 速度を優先するため、STL側でも範囲判定はあまり行なっていない )
```

```
template<typename T>
```

```
class CAllocator : public std::allocator<T>
```

```
{
```

```
public:
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// コンストラクタ
```

```
CAllocator() : std::allocator<T>::allocator()
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// コンストラクタ
```

```
CAllocator(const STL::CAllocator<T>& a_ ) : std::allocator<T>::allocator( a_ )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// メリを動的に確保する。
```

```
// n: 確保する数
```

```
// hint: 確保する際のヒント ( 使用される保証はない )
```

```
// 戻り値: 確保した領域の先頭アドレス
```

```
T* allocate( size_t n, const void* hint = 0 )
```

```
{
```

```
    return new T[ sizeof( T ) * n ];
```

```
    // return (T*) operator new( n * sizeof(T) );
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// メリを解放する。
```

```
// p: 解放する領域の先頭ポインタ
```

```
// n: 解放する領域のサイズ
```

```
void deallocate( T* p, size_t n )
```

```
{
```

```
    delete [] p;
```

```
    // ::operator delete(p);
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 要素数の限界値を返す。(※max_size() で返される値。これを越えてリサイズはできない)
```

```
size_t max_size() const
{
    return (size_t) -1 / sizeof( T );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// コンストラクタの初期化処理
```

```
//p: 初期化する領域の先頭ポインタ
```

```
//val: 初期値
```

```
void construct( T* p, const T& val )
{
    new ( (void*) p ) T( val );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// テストラクタを呼ぶ。
```

```
void destroy( T* p )
{
    (p)->~T();
}
```

```
// -----
```

```
}; // end class
```

```
// =====
```

```
}; // end namespace
```

```
// -----
```

#endif

## 【iterator】 ( STLのポインタ )

---

```
// -----
```

```
// 「イテータ」を使用したループ処理。
```

```
std::vector< int > vector1;
```

```
vector1.push_back( 0 ); // 要素0を追加する。
```

```
vector1.push_back( 1 ); // 要素1を追加する。
```

```
vector1.push_back( 2 ); // 要素2を追加する。
```

```
std::vector< int >::iterator itr = vector1.begin(); // 先頭イテータを取得する。
```

```
// ( 「要素[0]のポインタ」 だと考えればわかりやすい )
```

```
while ( itr != vector1.end() ) // 終端イテータになるまで、ループを続ける。
```

```
{
```

```
    int value = *itr; // 値を取り出す時の書き方も、ポインタと同じ。
```

```
    ++itr; // イテータをインクリメント (加算) している。
```

```
}
```

```
// -----
```

```
// 「逆順イテータ」を使用したループ処理。 ( ※終端の要素から始まる )
```

```
std::vector< int >::reverse_iterator itr = vector1.rbegin(); // 逆順イテータを取得する。
```

```
while ( itr != vector1.rend() ) // 先頭イテータになるまで、ループを続ける。
```

```
{
```

```
    int value = *itr; // 値を取り出す時の書き方も、ポインタと同じ。
```

```
    ++itr; // 逆順イテータをインクリメントしている。
```

```
}
```

```
// -----
```

```
// 「先頭挿入イテータ」による挿入処理。 ( 先頭に挿入(追加)できるのは、listとdequeだけ )
```

```
std::list< int > list1;
```



```
std::front_insert_iterator< std::list< int > > itr( list1 ); // 先頭挿入イテレータを作る。
```

```
*itr = 0; // 先頭に、0を挿入する。 → [0]=0  
*itr = 1; // 先頭に、1を挿入する。 → [0]=1 [1]=0  
*itr = 2; // 先頭に、2を挿入する。 → [0]=2 [1]=1 [2]=0
```

```
// -----  
// イテレータを作らずに使えるヘルパ関数だと、こうなる。 ↓
```

```
std::front_inserter( list1 ) = 0; // 先頭に、0を挿入する。 → [0]=0  
std::front_inserter( list1 ) = 1; // 先頭に、1を挿入する。 → [0]=1 [1]=0  
std::front_inserter( list1 ) = 2; // 先頭に、2を挿入する。 → [0]=2 [1]=1 [2]=0
```

```
// -----  
// 「末尾挿入イテレータ」による挿入処理。  
//  
// ( 末尾に挿入(追加)できるのは、vector、list、stack、queue、deque など、  
// append()メソッドがあるコンテナクラスなら、使用出来ます。 )
```

```
std::list< int > list1;
```

```
std::back_insert_iterator< std::list< int > > itr( list1 ); // 先頭挿入イテレータを作る。
```

```
*itr = 0; // 末尾に、0を挿入する。 → [0]=0  
*itr = 1; // 末尾に、1を挿入する。 → [0]=0 [1]=1  
*itr = 2; // 末尾に、2を挿入する。 → [0]=0 [1]=1 [2]=2
```

```
// -----  
// イテレータを作らずに使えるヘルパ関数だと、こうなる。 ↓
```

```
std::back_inserter( list1 ) = 0; // 末尾に、0を挿入する。 → [0]=0  
std::back_inserter( list1 ) = 1; // 末尾に、1を挿入する。 → [0]=1 [1]=0  
std::back_inserter( list1 ) = 2; // 末尾に、2を挿入する。 → [0]=2 [1]=1 [2]=0
```

```
// -----  
// 「挿入イテレータ」による挿入処理。
```

```
//
// ( どこにでも挿入できる。 insert()メソッドが使えるコンテナクラスなら使える。 )
```

```
std::list< int > list1;
```

```
// 挿入イテレータを作る。( コンストラクタの引数2で指定した要素位置に挿入する )
```

```
std::insert_iterator< std::list< int > > itr( list1, list1.begin() );
```

```
*itr = 0; // 末尾に、0を挿入する。 → [0]=0
```

```
*itr = 1; // 末尾に、1を挿入する。 → [0]=0 [1]=1
```

```
*itr = 2; // 末尾に、2を挿入する。 → [0]=0 [1]=1 [2]=2
```

```
// -----
```

```
// イテレータを作らずに使えるヘルプ関数だと、こうなる。 ↓
```

```
std::inserter( list1, list1.end() ) = 0; // 末尾に、0を挿入する。 → [0]=0
```

```
std::inserter( list1, list1.end() ) = 1; // 末尾に、1を挿入する。 → [0]=1 [1]=0
```

```
std::inserter( list1, list1.end() ) = 2; // 末尾に、2を挿入する。 → [0]=2 [1]=1 [2]=0
```

```
// -----
```

```
// #####
```

```
// イテレータの種類
```

```
// #####
```

```
// -----
```

```
// 【入力イテレータ】
```

```
++itr; // 1歩進める。
```

```
T value = *itr; // 要素値を取得する。
```

```
// -----
```

```
// 【出力イテレータ】
```

```
++itr; // 1歩進める。
```

```
*itr = value; // 要素値を設定する。
```

```
// -----
```

```
// 【前方イテレータ】
```

```
++itr; // 1歩進める。  
T value = *itr; // 要素値を取得する。  
*itr = value; // 要素値を設定する。
```

```
// -----
```

```
// 【双方向イテレーター】
```

```
++itr; // 1歩進める。  
--itr; // 1歩戻す。  
T value = *itr; // 要素値を取得する。  
*itr = value; // 要素値を設定する。
```

```
// -----
```

```
// 【ランダムアクセスイテレーター】
```

```
++itr; // 1歩進める。  
--itr; // 1歩戻す。  
itr += n; // n歩進める。  
itr -= n; // n歩戻す。  
T value = *itr; // 要素値を取得する。  
*itr = value; // 要素値を設定する。
```

```
// -----
```

- ・ 「**vector**」 のイテレーターは、ランダムアクセス。  
「**list**」 (双方向リスト) のイテレーターは、双方向。  
「**slist**」 (単方向リスト) だと、前方イテレーター。

## 【list】 ( 双方向リンクドリスト )

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_LIST_H_  
#define _STL_LIST_H_
```

```
#include <list>  
#include <algorithm>  
#include <iterator>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL  
{
```

```
// =====  
// 双方向リストクラスの定義 ( std::listのラップ - )
```

```
// ・挿入と削除は速いが、アクセスは遅い。(先頭アイテムから順に、リンクをたどってる)  
// ・挿入や削除によってindexが移動しても、そのまま使える。(イテレータは常に同じ要素を指している)
```

```
// ※要素が存在しないindexやイテレータを渡した場合は可る。  
// (速度を優先するため、STL側でも範囲判定はあまり行なっていない)
```

```
template<typename T>  
class CList  
{
```

```
protected: // publicでもOK。
```

```
// -----  
// データメンバ
```

```
std::list<T> list; // リスト本体。
```

```
public:
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// リスト本体の型
```

```
typedef typename std::list<T> InsideType; // リスト本体の型
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// イテレーター
```

```
typedef typename std::list<T>::iterator literator; // 通常のイテレーター (ランダムアクセス)
```

```
typedef typename std::list<T>::reverse_iterator RevIterator; // 逆順イテレーター
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// コンストラクタ
```

```
CList( void )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// デストラクタ
```

```
~CList( void )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定値で初期化された指定数の要素】で初期化する。( assign() )
```

```
inline void InitByValue( T value_, const size_t count_ )  
{  
    list.assign( count_, value_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定範囲の要素値】で初期化する。( assign() )
```

```
// dest_list を、src_list[5]、[6]、[7] で初期化する場合は、
```

```
//
```

```
// dest_list.InitByRange( src_list.GetItr(5), src_list.GetItr(8) );
```

```
inline void InitByRange( Iterator src_start_itr_, Iterator src_end_itr_ )  
{  
    list.assign( src_start_itr_, src_end_itr_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【リスト】を返す。
```

```
inline InsideType& GetList( void )  
{  
    return list;  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【リスト】を格納する。
```

```
inline void SetList( InsideType& list_ )  
{  
    list = list_;  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を返す。( size() )
```

```
inline size_t GetCount( void )
```

```
{  
    return list.size();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最大要素数】を返す。 ( max_size() )
```

```
// ※ 「size_t」の最大値。(「size_t」は、32bitシステムでは「unsigned int」)
```

```
inline size_t GetMaxCount( void )
```

```
{  
    return list.max_size();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を変更する。 ( resize() )
```

```
inline void Resize( const size_t length_ )
```

```
{  
    list.resize( length_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を変更し、新規要素を指定値で初期化する。 ( resize() )
```

```
inline void ResizeEx( const size_t length_, T value_ )
```

```
{  
    list.resize( length_, value_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最初の要素の値】を返す。 ( front() )
```

```
inline T GetFirstValue( void )
```

```
{
```

```

    return list.front();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【最後の要素の値】を返す。                ( back() )

inline T GetLastValue( void )
{
    return list.back();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexのイテラ
```

ター】を返す。 ( advance() )

```

inline Iterator GetItr( const size_t index_ )
{

    std::list<T>::iterator itr = list.begin();

    std::advance( itr, index_ ); // イテラターに指定indexを加算する。

    return itr;
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexの要素値】を返す。                ( advance() )

inline T GetValue( const size_t index_ )
{

    std::list<T>::iterator itr = list.begin();

    std::advance( itr, index_ ); // イテラターに指定indexを加算する。

    return *itr;
}

```



```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【指定indexの要素値】を変更する。          ( advance() )
```

```
inline void SetValue( const size_t index_, T value_ )  
{
```

```
    std::list<T>::iterator itr = list.begin();
```

```
    std::advance( itr, index_ ); // イテーターに指定indexを加算する。
```

```
    *itr = value_ ;  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【要素】を先頭に追加する。                ( push_front() )
```

```
inline void AddFirst( T value_ )  
{  
    return list.push_front( value_ ); // 追加する。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【要素】を末尾に追加する。                ( push_back() )
```

```
inline void AddLast( T value_ )  
{  
    return list.push_back( value_ ); // 追加する。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【指定イテータの要素】を、【別のリスト】に置換する。    ( splice() )
```

```
inline void ReplaceByList( Iterator dest_itr_, STL::CList<T>& src_list_ )  
{  
    list.splice( dest_itr_, src_list_.GetList() ); // 挿入する。  
}
```

```

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定イテータの要素】を、【別のリストの指定イテータの指す要素】に置換する。(splice())

// dest_list[1] に src_list[5] を挿入する場合は、
//
// dest_list.ReplaceByListItem( dest_list.GetItr(1), src_list, src_list.GetItr(5) );

inline void ReplaceByListItem( Iterator dest_itr_, STL::CList<T>& src_list_, Iterator src_itr_ )
{
list.splice( dest_itr_, src_list_.GetList(), src_itr_ ); // 挿入する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定イテータの要素】を、【別のリスト中の指定範囲の要素】に置換する。(splice())

// ・ 逆順のリストは、同じリストでもいい。

// list[1]に、[5][6][7]を挿入する場合は、
//
// list2.ReplaceByRange( list2.GetItr(1), list1, list1.GetItr(5), list1.GetItr(8) );

inline void ReplaceByRange(
    Iterator dest_itr_,
    STL::CList<T>& src_list_,
    Iterator src_start_itr_,
    Iterator src_end_itr_
)
{
list.splice( dest_itr_, src_list_.GetList(), src_start_itr_, src_end_itr_ ); // 挿入する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定イテータの要素】に、【要素】を挿入し、【挿入位置のイテータ】を返す。(insert())

// ※逆順イテータは受け付けない。

inline Iterator Insert( Iterator itr_, T value_ )

```

```
{
return list.insert( itr_, value_ ); // 挿入する。
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【指定イテレータの要素】に、【指定数の要素】を挿入する。( insert() )
```

```
// ※逆順イテレータは受け付けない。
```

```
inline void InsertByValue( Iterator itr_, T value_, const size_t count_ )
{
list.insert( itr_, count_, value_ ); // 挿入する。
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 指定indexに【指定範囲の要素】を挿入する。 ( insert() )
```

```
// ※逆順イテレータは受け付けない。
```

```
// list1 の [1] に、list2 の [5]、[6]、[7] を挿入する場合は、
//
// list1.InsertByRange( list1.GetItr(1), list2.GetItr(5), list2.GetItr(8) );
```

```
inline void InsertByRange( Iterator dest_itr_, Iterator src_start_itr_, Iterator src_end_itr_ )
{
list.insert( dest_itr_, src_start_itr_, src_end_itr_ ); // 挿入する。
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【指定index】に【要素】を挿入し、【挿入位置のイテレータ】を返す。( insert() )
```

```
inline Iterator InsertAt( const size_t index_, T value_ )
{
```

```
    std::list<T>::iterator itr = list.begin();
```

```
    std::advance( itr, index_ ); // イテレータに指定indexを加算する。
```

```

return list.insert( itr, value_ ); // 挿入する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定イテータの指す要素】を削除し、【その次の要素のイテータ】を返す。( erase() )

// ※逆順イテータは受け付けない。

inline Iterator Remove( Iterator itr_ )
{
    return list.erase( itr_ ); // 削除する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲の要素】を削除し、【その次の要素のイテータ】を返す。( erase() )

// ※逆順イテータは受け付けない。

// list1 の [5]、[6]、[7] を削除する場合は、
//
// list1.RemoveByRange( list1.GetItr(5), list1.GetItr(8) );

inline Iterator RemoveByRange( Iterator start_itr_, Iterator end_itr_ )
{
    return list.erase( start_itr_, end_itr_ ); // 削除する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【要素】を削除し、【その次の要素のイテータ】を返す。( erase() )

inline Iterator RemoveAt( const size_t index_ )
{
    std::list<T>::iterator itr = list.begin();

    std::advance( itr, index_ ); // イテータに指定indexを加算する。
}

```

```

        return list.erase( itr ); // 削除する。
    }

// -----<OK><テスト済み>
// 【最初の要素】を削除する。                ( pop_front() )

inline void RemoveFirst( void )
{
    list.pop_front();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【最後の要素】を削除する。                ( pop_back() )

inline void RemoveLast( void )
{
    list.pop_back();
}

// -----<OK><テスト済み>
// クリアする。                            ( clear() )

inline void Clear( void )
{
    list.clear();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 昇順にソートする。( C標準ライブラリのqsort関数よりも速い ) ( sort() )

inline void Sort( void )
{
    list.sort();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 降順(逆順)にソートする。                ( sort() )

```

```
inline void Sort_Reverse( void )
{
    list.sort( std::greater<T>() );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【並び順】を逆にする。 ( reverse() )
```

```
inline void Reverse( void )
{
    list.reverse();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【値が重複する要素】を削除する。 ( unique() )
```

// ※重複する値は、連続していなければいけない。(つまり、事前にソートしておかないといけない)

```
inline void Unique( void )
{
    list.unique();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【別のリスト】を混ぜてソートする。 ( merge() )
```

// ※両方の要素値がソートされていなければならない。(逆順ではダメ)

```
inline void Merge( STL::CList<T>& list_ )
{
    list.merge( list_.GetList() );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【最初の要素のイテレータ】を返す。 ( begin() )
```

```
inline Iterator GetFirstltr(void)
```

```
{  
    return list.begin();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最後の要素のイテレータ】を返す。 (end())
```

```
inline Iterator GetLastltr(void)
```

```
{  
    return list.end();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 逆順ループ時の【最初の要素([count-1])のイテレータ】を返す。(rbegin())
```

```
inline RevIterator GetFirstltr_Rev(void)
```

```
{  
    return list.rbegin();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 逆順ループ時の【最後の要素([0])のイテレータ】を返す。 (rend())
```

```
inline RevIterator GetLastltr_Rev(void)
```

```
{  
    return list.rend();  
}
```

```
// -----
```

```
// #####
```

```
// 演算子のオーバーロード
```

```
// #####
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// T value = instance[ index_ ]
```

```
// begin_itr++; // list[0] 加算されていない。
```

```

// ++begin_itr; // list[1] 加算されている。

// itr += 1; // 構文エラー。
// *(itr + 1); // 構文エラー。

// というわけで、advance()でインクリメントするしか無い。

// int value = list[i]; // 値は取れるが、
// list[i] = 10; // 格納はできない。

inline T operator[]( const size_t index_ )
{

    std::list<T>::iterator itr = list.begin();

    std::advance( itr, index_ ); // イテレーターに指定indexを加算する。

    return *itr;
}

// -----<OK><テスト済み>
// instance = CList

inline void operator=( CList<T>& list_ )
{
    list = list_.GetList();
}

// -----<OK><テスト済み>
// bool result = ( instance == CList )

inline bool operator==( CList<T>& list_ )
{
    return ( list == list_.GetList() );
}

// -----<OK><テスト済み>

```



```
// bool result = ( instance != CList )
```

```
inline bool operator!=( CList<T>& list_ )
```

```
{
```

```
return ( list != list_.GetList() );
```

```
}
```

```
// -----
```

```
}; // end class
```

```
}; // end namespace
```

```
// -----
```

```
#endif
```

## 【hash\_map】 ( ハッシュテーブル )

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_HASH_MAP_H_
```

```
#define _STL_HASH_MAP_H_
```

```
#include <hash_map>
```

```
using namespace std;
```

```
using namespace stdext;
```

```
namespace STL
```

```
{
```

```
// =====
```

```
// ハッシュマップ クラスの定義 ( hash_map のラッパ - )
```

```
// ・ ハッシュアルゴリズムを使用しているため、std::map よりも実行速度が速い。
```

```
template<typename TKey,typename TValue>
```

```
class CHashMap
```

```
{
```

```
protected: // public でも OK。
```

```
// -----
```

```
// メンバ
```

```
hash_map<TKey,TValue> hash; // ハッシュマップ 本体。
```

```
public:
```

```

// -----<OK><テスト済み>
// ハッシュマップ° 本体の型

typedef typename hash_map<TKey,TValue> InsideType; // ハッシュマップ° 本体の型

typedef typename std::pair<TKey,TValue> KeyValuePair; // キー° の型

// -----<OK><テスト済み>
// イテレーター

typedef typename hash_map<TKey,TValue>::iterator Iterator; // 通常のイテレーター (ランダムアクセス)

typedef typename hash_map<TKey,TValue>::reverse_iterator RevIterator; // 逆順イテレーター

// -----<OK><テスト済み>
// コンストラクタ

CHashMap( void )
{

}

// -----<OK><テスト済み>
// デストラクタ

~CHashMap( void )
{

}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定キーに対応する要素のイテレーター】を返す。 (find())

// STL::CHashMap<std::string,int>::iterator itr = hash1.GetItr( std::string("BBB") );

inline Iterator GetItr( TKey& key_ )

```

```

{

return hash.find( key_ );

// if ( itr == hash.end() ) // 見つからなかった。

}

// -----<OK><テスト済み>
// 【ハッシュマップ】を返す。

inline InsideType& GetHashMap( void )
{
    return hash;
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【ハッシュマップ】を格納する。

inline void SetHashMap( InsideType& hash_ )
{
    hash = hash_;
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【要素数】を返す。 ( size() )

inline size_t GetCount( void )
{
    return hash.size();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定キーに対応する要素数】を返す。 ( count() )

inline size_t GetCountByKey( TKey key_ )
{

```

```

        return hash.count( key_ );
    }

// -----<OK><テスト済み>
// 【最大要素数】 を返す。                ( max_size() )

// ※ 「size_t」 の最大値。 ( 「size_t」 は、32bitシステムでは 「unsigned int」 )

inline size_t GetMaxCount( void )
{
    return hash.max_size();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定したキー】 が存在するなら、TRUEを返す。        ( find() )

inline bool ContainsKey( TKey key_ )
{
    return ( hash.find( key_ ) != hash.end() );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定キーに対応する値】 を返す。        ( 値 = hash_map[ key ] )

inline TValue GetValue( TKey key_ )
{
    return hash[ key_ ];
}

// ※存在しないキーを指定すると、デフォルト値で初期化されたキーペアが追加され、その値が返る。

// ・ hash.at( key_ ) の場合は、未登録のキーに対して、out_of_range例外を叩く。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定キーに対応する値】 を変更する。        ( hash_map[key] = 値 )

inline void SetValue( TKey key_, TValue value_ )

```



```
inline void RemoveAt( TKey key_ )
```

```
{  
  
    hash.erase( key_ );  
  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// クリアする。                                ( clear() )
```

```
inline void Clear( void )
```

```
{  
  
    hash.clear();  
  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【要素数】が0ならTRUEを返す。            ( empty() )
```

```
inline bool IsEmpty( void )
```

```
{  
  
    return hash.empty();  
  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【最初の要素のイテラタ】を返す。          ( begin() )
```

```
inline Iterator GetFirstltr( void )
```

```
{  
  
    return hash.begin();  
  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【最後の要素のイテラタ】を返す。          ( end() )
```

```
inline Iterator GetLastltr( void )
```

```
{  
  
    return hash.end();  
  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【最初の要素の逆順イテラタ】を返す。          ( rbegin() )
```

```
inline Revlterator GetFirstltr_Rev( void )
{
    return hash.rbegin();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【最後の要素の逆順イテラタ】を返す。          ( rend() )
```

```
inline Revlterator GetLastltr_Rev( void )
{
    return hash.rend();
}
```

```
// -----
// #####
// 演算子のオーバーロード
// #####
// -----<OK><テスト済み>
// TValue value = instance[ key_ ]
```

```
inline TValue operator[] ( TKey key_ )
{
    return hash[ key_ ];
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// instance = CHashMap
```

```
inline void operator=( CHashMap<TKey,TValue>& hash_ )
{
    hash = hash_.GetHashMap();
}
```



```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// bool result = ( instance == CHashMap )
```

```
inline bool operator==( CHashMap<TKey,TValue>& hash_ )  
    {  
return ( hash == hash_.GetHashMap() );  
    }
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// bool result = ( instance != CHashMap )
```

```
inline bool operator!=( CHashMap<TKey,TValue>& hash_ )  
    {  
return ( hash != hash_.GetHashMap() );  
    }
```

```
// -----
```

```
}; // end class
```

```
}; // end namespace
```

```
// -----
```

```
#endif
```

## 【stack】 ( 積み上げるコンテナ )

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_STACK_H_  
#define _STL_STACK_H_
```

```
#include <stack>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL  
{
```

```
// =====
```

```
// スタッククラスの定義 ( std::stackのラッパー )
```

```
// ・ スタックは、要素を積み上げていくコンテナ。
```

```
// ・ 最上段の要素に対して、Add()メソッドで要素を積み、Remove()で削除する。
```

```
// ・ 値も、最上段の要素のものしか取得できない。( GetValue()で取得する )
```

```
// [2] add → [1][0]
```

```
// [2] ← get&remove [1][0]
```

```
template<typename T>
```

```
class CStack
```

```
{
```

```
protected: // publicでもOK。
```

```
// -----
```

```
// データメンバ
```

```
std::stack<T> stack; // スタック 本体。
```

```
public:
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// スタック本体の型
```

```
typedef typename std::stack<T> InsideType; // スタック本体の型
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// コンストラクタ
```

```
    CStack( void )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// デストラクタ
```

```
    ~CStack( void )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【スタック】を返す。
```

```
inline InsideType& GetStack( void )
```

```
{
```

```
    return stack;
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

// 【スタック】を格納する。

```
inline void SetStack( InsideType& stack_ )  
{  
    stack = stack_;  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【要素数】を返す。 ( size() )

```
inline size_t GetCount( void )  
{  
    return stack.size();  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【要素数】が0なら**TRUE**を返す。 ( empty() )

```
inline bool IsEmpty( void )  
{  
    return stack.empty();  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 最上段に【要素】を追加する。 ( push() )

// [3] add→ [2][1][0]

```
inline void Add( T value_ )  
{  
    stack.push( value_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【最上段の要素】を削除する。 ( pop() )

// [2] ←remove [1][0]

```
inline void Remove( void )
```

```
{
```

```
    stack.pop();
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最上段の要素値】を返す。 ( top() )
```

```
// [2] ←get [2][1][0]
```

```
inline T GetValue( void )
```

```
{
```

```
    return stack.top();
```

```
}
```

```
// -----
```

```
}; // end class
```

```
}; // end namespace
```

```
// -----
```

```
#endif
```

## 【queue】 ( トンネルに詰め込むコンテナ )

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_QUEUE_H_
```

```
#define _STL_QUEUE_H_
```

```
#include <queue>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL
```

```
{
```

```
// =====
```

```
// キュークラスの定義 ( std::queue のラッパー )
```

```
// ・ キューは、トンネルに車を詰めていくタイプ のコンテナ。
```

```
// ・ 新しい要素を末尾に追加し、先頭の要素を取り出しては削除していく。
```

```
// [3] add → [2][1] remove → [0]
```

```
// push ( 押しこむ ) → pop ( 取り出す )
```

```
template<typename T>
```

```
class CQueue
```

```
{
```

```
protected: // public でも OK。
```

```
// -----
```

```
// データメンバ
```

`std::queue<T> queue;` // キュー 本体。

public:

// -----<OK><テスト済み>

// キュー本体の型

typedef typename `std::queue<T>` **InsideType**; // キュー本体の型

// -----

// コンストラクタ

**CQueue**( void )

{

}

// -----

// デストラクタ

**~CQueue**( void )

{

}

// -----

// 【キュー】を返す。

inline InsideType& **GetQueue**( void )

{

return queue;

}

// -----

// 【キュー】 を格納する。

```
inline void SetQueue( InsideType& queue_ )  
{  
    queue = queue_;  
}
```

// -----

// 【要素数】 を返す。 ( size() )

```
inline size_t GetCount( void )  
{  
    return queue.size();  
}
```

// -----

// 【要素数】 が0なら**TRUE**を返す。 ( empty() )

```
inline bool IsEmpty( void )  
{  
    return queue.empty();  
}
```

// -----

// 末尾に【要素】を追加する。 ( push() )

// [3] add → [2][1][0]

```
inline void Add( T value_ )  
{  
    queue.push( value_ );  
}
```

// -----

// 先頭の【要素】を削除する。( 値を処理した後、削除する ) ( pop() )

// [2][1] remove → [0]



```

inline void Remove( void )
{
    queue.pop();
}

// -----
// 【要素】を返す。(削除はしない)           ( front() )

// [2][1][0] get→ [0]

inline T GetFrontValue( void )
{
    return queue.front();
}

// -----
// 終端の【要素】を返す。(取り出して削除はしない)   ( back() )

// [2] ←get [2][1][0]

inline T GetBackValue( void )
{
    return queue.back();
}

// -----

}; // end class

}; // end namespace

// -----

#endif

```

## 【deque】 (両方から詰め込むキュー)

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_DEQUE_H_
```

```
#define _STL_DEQUE_H_
```

```
//アロケータクラスのヘッダファイルをインクルードしておく。
```

```
#include "STL_Allocator.h"
```

```
#include <deque>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL
```

```
{
```

```
// -----
```

```
// 【使用例】
```

```
// =====
```

```
// デキュークラスの定義 (std::dequeのラッパー)
```

```
// ・キューとの違いは、両端に値を追加できること。
```

```
// ・メソッドの構成は、std::vector とほぼ同じ。(キャパシティの取得・設定ができない)
```

```
// ※追加、削除、リサイズなどを行うと、要素のアドレスが変更されるため、以前のイテータが使用できなくなる。
```

```
template<typename T>
```

```
class CDeque
```

```
{
```

protected: // publicでもOK。

// -----<OK><テスト済み>

// メンバ

**std::deque<TValue, CAllocator<TValue>> deque;** // デキュー本体。

public:

// -----<OK><テスト済み>

// デキュー本体の型

typedef typename std::deque<TValue, CAllocator<TValue>> **InsideType;** // デキュー本体の型

// -----<OK><テスト済み>

// イテレーター

// 通常のイテレーター (ランダムアクセス)

typedef typename std::deque<TValue, CAllocator<TValue>>::iterator **Iterator;**

// 逆順イテレーター (ランダムアクセス)

typedef typename std::deque<TValue, CAllocator<TValue>>::reverse\_iterator **RevIterator;**

// -----<OK><テスト済み>

// コンストラクタ

**CDeque( void )**

{

}

// -----<OK><テスト済み>

// デストラクタ

~CDeque(void )

```
{  
  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【指定値で初期化された指定数の要素】で初期化する。( assign() )

```
inline void InitByValue( TValue value_, const size_t count_ )
```

```
{  
    deque.assign( count_, value_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【指定範囲の要素値】で初期化する。 ( assign() )

// dest\_deque を、src\_deque[5]、[6]、[7] で初期化する場合は、

```
//  
// dest_deque.InitRange( src_deque.GetItr(5), src_deque.GetItr(8) );
```

```
inline void InitByRange( Iterator src_start_itr_, Iterator src_end_itr_ )
```

```
{  
    deque.assign( src_start_itr_, src_end_itr_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【指定indexのイテラ】を返す。

// ※戻り値のイテラを、参照にしていけないのには理由がある。

// このクラスが0-加変数として宣言された場合、

// スタック領域のアドレスを返してしまうため、0からである。

```
inline Iterator GetItr( const size_t index_ )
```

```
{  
    return ( deque.begin() + index_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【デキュー】を返す。
```

```
inline InsideType& GetDeque( void )
```

```
{  
    return deque;  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【デキュー】を格納する。
```

```
inline void SetDeque( InsideType& deque_ )
```

```
{  
    deque = deque_;  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を返す。 ( size() )
```

```
inline size_t GetCount( void )
```

```
{  
    return deque.size();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【最大要素数】を返す。 ( max_size() )
```

```
// ※ 「size_t」の最大値。(「size_t」は、32bitシステムでは「unsigned int」)
```

```
inline size_t GetMaxCount( void )
```

```
{  
    return deque.max_size();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【要素数】を変更する。 ( resize() )
```

//・新しく追加された要素の値は、0クリアされている。

```
inline void Resize( const size_t length_ )
```

```
{  
    deque.resize( length_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【要素数】を変更し、【追加された要素】を、【指定値】で初期化する。(resize())

```
inline void ResizeEx( const unsigned int length_, TValue value_ )
```

```
{  
    deque.resize( length_, value_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【最初の要素の値】を返す。 ( front() )

```
inline TValue GetFirstValue( void )
```

```
{  
    return deque.front();  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【最後の要素の値】を返す。 ( back() )

```
inline TValue GetLastValue( void )
```

```
{  
    return deque.back();  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【指定**index**の要素値】を返す。 ( 値 = deque[i] )

```
inline TValue GetValue( const size_t index_ )
```

```
{  
    return deque[ index_ ];  
}
```

```
// deque.at( index_ ) の場合は、範囲外のindexに対して、out_of_range例外を叩く。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【指定indexに要素値】を格納する。 ( deque[i] = 値 )
```

```
inline void SetValue( const size_t index_, TValue value_ )  
{  
    deque[ index_ ] = value_;  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【要素】を末尾に追加する。 ( push_back() )
```

```
inline void Add( TValue value_ )  
{  
    return deque.push_back( value_ ); // 追加する。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【指定イテータの要素】に、【要素】を挿入し、【挿入位置のイテータ】を返す。( insert() )
```

```
// ※指定したイテータの要素に、指定値が格納される。  
// ※指定するindexは、AddやResizeで拡張された範囲を超えるとかかる。
```

```
// ※逆順イテータは受け付けない。
```

```
inline Iterator Insert( Iterator itr_, TValue value_ )  
{  
    return deque.insert( itr_, value_ ); // 挿入する。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【指定イテータの要素】に、【指定数の要素】を挿入する。( insert() )
```

```
// ※逆順イテータは受け付けない。
```

```

inline void InsertByValue( Iterator itr_, TValue value_, const size_t count_ )
{
deque.insert( itr_, count_, value_ );// 挿入する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定index】に、【指定範囲の要素】を挿入する。( insert() )

// ※逆順イテータは受け付けない。

// deque1 の [1] に、 deque2 の [5]、 [6]、 [7] を挿入する場合は、
//
// deque1.InsertByRange( deque1.GetItr(1), deque2.GetItr(5), deque2.GetItr(8) );

inline void InsertByRange( Iterator dest_itr_, Iterator src_start_itr_, Iterator src_end_itr_ )
{
deque.insert( dest_itr_, src_start_itr_, src_end_itr_ );// 挿入する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定index】に、【要素】を挿入し、【挿入位置のイテータ】を返す。( insert() )

// ※指定したindexの要素に、指定値が格納される。
// ※指定するindexは、AddやResizeで拡張された範囲を超えるとわる。

inline Iterator InsertAt( const size_t index_, TValue value_ )
{
return deque.insert( deque.begin() + index_, value_ );// 挿入する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定イテータの指す要素】を削除し、【その次の要素のイテータ】を返す。( erase() )

inline Iterator Remove( Iterator itr_ )
{
return deque.erase( itr_ );
}

```



```

}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲の要素】を削除し、【その次の要素のイテレータ】を返す。(erase())

// ※逆順イテレータは受け付けない。

// deque1 の [5]、[6]、[7] を削除する場合は、
//
// deque1.RemoveByRange( deque1.GetItr(5), deque1.GetItr(8) );

inline Iterator RemoveByRange( Iterator start_itr_, Iterator end_itr_ )
{
    return deque.erase( start_itr_, end_itr_ ); // 削除する。
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexの要素】を削除する。 ( erase() )

inline Iterator RemoveAt( const size_t index_ )
{
    return deque.erase( deque.begin() + index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【最後の要素】を削除する。 ( pop_back() )

inline void RemoveLast( void )
{
    deque.pop_back();
}

// -----<OK><テスト済み>
// クリアする。 ( clear() )

inline void Clear( void )
{

```

```

    deque.clear();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【最初の要素のイテラタ】を返す。          ( begin() )

// int value = *itr; // ふつうに最初の要素の値が返る。

inline Iterator GetFirstltr( void )
{
    return deque.begin();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【最後の要素のイテラタ】を返す。          ( end() )

// int value = *itr; // ※範囲外のポインタなのでアクセス違反エラーが出る。
// int value = *(itr-1); // ※これが最後の要素の値。(なぜか逆方向に進めてしまう)

inline Iterator GetLastltr( void )
{
    return deque.end();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 逆順ループ時の、【最初の要素([count-1])のイテラタ】を返す。( rbegin() )

// for ( Revlterator itr = deque1.rbegin() ; itr != deque1.rend(); itr++ )
// {
//     int value = *(itr);
// }

// 要素数が3の場合、
//
// int value = *( itr ); // 要素[2]の値が返る。
// int value = *( itr - 1 ); // 要素[1]の値が返る。
// int value = *( itr - 2 ); // 要素[0]の値が返る。

```

```

inline Revlterator GetFirstltr_Rev( void )
{
    return deque.rbegin();
}

```

```

// -----<OK><テスト済み>
// 逆順ループ時の、【最後の要素([0])のイテレータ】を返す。 (rend())

```

```

// 要素数が3の場合、
//
// int value = *( itr - 1 ); // 要素[0]の値が返る。
// int value = *( itr - 2 ); // 要素[1]の値が返る。
// int value = *( itr - 3 ); // 要素[2]の値が返る。

```

```

// ※ *itr は構文エラー。
// ※ *(itr) は範囲外のポインタなのでアクセス違反エラーが出る。

```

```

inline Revlterator GetLastltr_Rev( void )
{
    return deque.rend();
}

```

```

// -----
// #####
// 演算子のオーバーロード
// #####
// -----<OK><テスト済み>
// TValue value = instance[ index_ ]

```

```

// ※ int v1 = (*p_deque)[0]; これはできるが、(*p_deque)[0] = 10; これはできない。 *p1 = *p2; これはOK。

```

```

inline TValue operator[] ( const size_t index_ )
{
    return deque[ index_ ];
}

```

```

// -----<OK><テスト済み>
// instance = CDeque

inline void operator=( CDeque<TValue>& deque_ )
{
deque = deque_.GetDeque();
}

// -----<OK><テスト済み>
// bool result = ( instance == CDeque )

// ※要素値の総和が同値ならTRUE。

inline bool operator==( CDeque<TValue>& deque_ )
{
return ( deque == deque_.GetDeque() );
}

// -----<OK><テスト済み>
// bool result = ( instance != CDeque )

inline bool operator!=( CDeque<TValue>& deque_ )
{
return ( deque != deque_.GetDeque() );
}

// -----

}; // end class

}; // end namespace

// -----

#endif

```

## 【auto\_ptr】 ( 自動解放ポインタ )

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_AUTO_PTR_H_  
#define _STL_AUTO_PTR_H_
```

```
#include <memory>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL
```

```
{
```

```
// =====  
// 自動ポインタクラスの定義 ( std::auto_ptrのラッパ - )
```

```
// ・ コンストラクタで渡したポインタを、自動的に解放してくれる。 std::auto_ptr<CObject> ap1( new  
CObject() );
```

```
// ・ ->演算子(上書き)を使って、ポインタのメンバにアクセスできる。 CObject* p_obj = ap1->GetValue();
```

```
// ※配列のポインタは、格納できない。
```

```
// ※同じポインタを、複数のオートポインタに格納することはできない。
```

```
// ※オートポインタを、コンテナの要素にはできない。
```

```
// std::auto_ptr ... 関数変数として使用する場合は軽くていい。
```

```
// boost::shared_ptr ... コンテナを使う場合や関数に渡す場合に使用する。
```

```
// ※要素が存在しないindexやイテレータを渡した場合は可る。
```

```
// ( 速度を優先するため、STL側でも範囲判定はあまり行っていない )
```

```
template<typename T>
```

```
class CAutoPtr
```

```
{
```

protected: // publicでもOK。

// -----

// データメンバ

**std::auto\_ptr<T> ptr;** // 自動ポインタ本体。

public:

// -----<OK><テスト済み>

// オートポインタ本体の型

typedef typename **std::auto\_ptr<T> InsideType;** // オートポインタ本体の型

// -----<OK><テスト済み>

// コンストラクタ

**CAutoPtr() : ptr()**

{

}

// -----<OK><テスト済み>

// コンストラクタ

**CAutoPtr( T\* p\_ ) : ptr( p\_ )**

{

}

// -----<OK><テスト済み>

// デストラクタ

**~CAutoPtr( void )**

{

```

}

// -----<OK><テスト済み>
// 【オートポインタ】を返す。

inline InsideType& GetAutoPtr( void )
{
    return ptr;
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【オートポインタ】を格納する。

inline void SetAutoPtr( InsideType& ptr_ )
{
    ptr = ptr_;
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【ポインタ】を返す。 ( get() )

inline T* GetPtr( void )
{
    return ptr.get();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【ポインタ】を変更する。 ( reset() )

inline void SetPtr( T* p_ = NULL )
{
    ptr.reset( p_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【ポインタ】を明示的に解放する。 ( release() )

```

```
inline void Release( void )
{
    ptr.release();
}
```

```
// -----
// #####
// 演算子のオーバーロード
// #####
// -----<OK><テスト済み>
// T* p = ap1.get(); // auto_ptrにも -> がオーバーロードされているので、
//                 // それを使ってポインタのメンバにアクセスすることもできる。
```

```
inline T* operator->()
{
    return ptr.get();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// T value = *ap1; // ポインタの値を取り出す。
```

```
inline T operator*()
{
    return *ptr;
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// instance = ap2
```

```
inline void operator=( CAutoPtr<T>& ptr_ )
{
    ptr = ptr_.GetAutoPtr();
}
```

```
// -----
```



```
}; // end class
```

```
}; // end namespace
```

```
// -----
```

```
#endif
```

## 【wstring】 (ワイド文字配列) 1

---

```
#pragma once

#ifndef _STL_STRINGW_H_
#define _STL_STRINGW_H_

#include <string>

using namespace std;

namespace STL
{
// -----
// NotFound定数 ( 検索した際に、条件に一致する位置が見つからなかった時に返る値。 )

#define NotFound 4294967295 // std::wstring::npos

// -----<OK><テスト済み>
// イテレーター

typedef std::wstring::iterator literator; // 通常のイテレーター (ランダムアクセス)
typedef std::wstring::const_iterator ConstIterator; // 固定イテレーター
typedef std::wstring::reverse_iterator RevIterator; // 逆順イテレーター (ランダムアクセス)
typedef std::wstring::const_reverse_iterator ConstRevIterator; // 逆順固定イテレーター
// -----
// ワイド文字列クラスの定義 ( std::wstring のラッパー )

class CStringW
{
// -----
// テーマメンバ

protected:
```

```
std::wstring text; // ワイド文字列の本体。
```

```
// マルチバイトを使う場合は、ここを std::string にする。
```

```
public:
```

```
// -----
```

```
// コンストラクタ
```

```
CStringW( void ) : text()
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// コンストラクタ
```

```
CStringW( CStringW& text_ )
```

```
{
```

```
    text_.GetString( text );
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// コンストラクタ
```

```
CStringW( const std::wstring& text_ ) : text( text_ )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// コンストラクタ
```

```
CStringW( const WCHAR* p_text_ ) : text( p_text_ )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// デストラクタ
```

```
~CStringW(void)
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【ワイド文字列】を返す。
```

```
inline void GetString( std::wstring& text_ )
```

```
{
```

```
    text_ = text;
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【ワイド文字列】を変更する。
```

```
inline void SetString( const std::wstring& text_ )
```

```
{
```

```
    text = text_;
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定indexの1文字】を返す。 ( at() )
```

```
inline WCHAR GetChar( const size_t index_ )
```

```
{
```

```
    return text.at( index_ );
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【ポインタ】を返す。 ( c_str() )
```

```
// ※返される文字列は、終端に必ずNULL文字が付加されている。
```

```
// ・文字数0の場合、p_result[0]は、NULL文字。  
// ・p_result[length] は、NULL文字。
```

```
inline const WCHAR* GetPtr(void)  
{  
    return text.c_str(); // data() と同じ。  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【指定indexのイテータ】を返す。
```

```
// ※戻り値のイテータを、参照していないのには理由がある。  
// このクラスがローカル変数として宣言された場合、  
// ローカルのアドレスを返してしまうためである。
```

```
inline Constlterator Getltr( const size_t index_ )  
{  
    return ( text.begin() + index_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【文字数】を返す。 ( length() or size() )
```

```
// ※終端のNULL文字を含まない。
```

```
inline size_t GetLength(void)  
{  
    return text.length();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【最大文字数】を返す。 ( max_size() )
```

```
inline size_t GetMaxLength(void)  
{  
    return text.max_size();  
}
```

```

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を初期化する。                ( assign() )

// ※ std::wstring::value_type は、wchar_t。

// STL::CStringW text1;
// text1.Init( L"あいうえお", 3 );// text1 は、"あいう" で初期化される。

inline std::wstring& Init( const WCHAR* p_text_ )
{
    return text.assign( p_text_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を初期化する。                ( append() )

// STL::CStringW text1;
// text1.Init( L"あいうえお", 3 );// text1 は、"あいう" で初期化される。

inline std::wstring& Init( const WCHAR* p_text_ , const size_t length_ )
{
    return text.assign( p_text_ , length_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】で初期化する。                ( append() )

// STL::CStringW text1;
// std::wstring text2( L"かきくけこ" );
// text1.InitByString( text2 );// text1 は、"かきくけこ" で初期化される。

inline void InitByString( const std::wstring& text_ )
{
    text.assign( text_ );
}

```

```

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 で初期化する。 ( append() )

// STL::CStringW text1;
// std::wstring text2( L"かきくけこ" );
// text1.InitByString( text2, 1, 2 ); // text1 は、"きく" で初期化される。

inline std::wstring& InitByString(
    const std::wstring& text_, // この文字列で初期化される。
    const size_t start_index_, // 部分文字列の開始位置。
    const size_t length_ // 部分文字列の文字数。
)
{
    return text.assign( text_, start_index_, length_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定した文字】 で初期化する。 ( append() )

// STL::CStringW text1;
// text1.InitByChar( L'あ', 3 ); // text1 は、"あああ" で初期化される。

inline std::wstring& InitByChar( const WCHAR char_, const size_t count_ )
{
    return text.assign( count_, char_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲の文字列】 で初期化する。(ポインタ版) ( append() )

// STL::CStringW text1;
// WCHAR src[] = L"かきくけこ";
// text1.InitByRange( src + 1, src + 3 ); // text1 は、"きく" で初期化される。

inline std::wstring& InitByRange( const WCHAR* p_src_start_, const WCHAR* p_src_end_ )
{
    return text.assign( p_src_start_, p_src_end_ );
}

```

```

}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲の文字列】で初期化する。(イテレータ版) (append())

// STL::CStringW text1;
// std::wstring src( L"かきくけこ");
// std::wstring::iterator itr = src.begin();
// text1.InitByRange( itr + 1, itr + 3 ); // text1 は、"きく" で初期化される。

inline std::wstring& InitByRange( const Iterator src_start_itr_, const Iterator src_end_itr_ )
{
    return text.assign( src_start_itr_, src_end_itr_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字列】と比較する。 (compare())

// ※この比較では、大文字・小文字は区別される。
// ( ( L"Uma" == L"uma" ) は false )

inline bool Compare( const std::wstring& text_ )
{
    return ( text.compare( text_ ) == 0 );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲】と【指定文字列】を比較する。 (compare())

// 引数1,2で指定された範囲の部分文字列と、指定された文字列を比較する。

inline bool Compare(
    const size_t index_, // 比較する部分のオフセット。(この文字列の)
    const size_t length_, // 比較する部分の文字数。(この文字列の)
    const std::wstring& text_ // 比較する文字列。
)
{

```



```

    return ( text.compare( index_, length_, text_ ) == 0 );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲】 と 【指定文字列の指定範囲】 を比較する。 ( compare() )

inline bool Compare(
    const size_t    index_,    // 比較する部分のオフセット。 ( この文字列の )
    const size_t    length_,    // 比較する部分の文字数。 ( この文字列の )
    const std::wstring& text_,    // 比較する文字列。
    const size_t    text_offset_, // 比較する部分のオフセット。 ( 指定文字列の )
    const size_t    text_length_ // 比較する部分の文字数。 ( 指定文字列の )
)
{
    return ( text.compare( index_, length_, text_, text_offset_, text_length_ ) == 0 );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字列】 と比較する。 ( compare() )

inline bool Compare( const WCHAR* p_text_ )
{
    return ( text.compare( p_text_ ) == 0 );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲】 と 【指定文字列】 を比較する。 ( compare() )

inline bool Compare(
    const size_t    index_, // 比較する部分のオフセット。 ( この文字列の )
    const size_t    length_, // 比較する部分の文字数。 ( この文字列の )
    const WCHAR* p_text_ // 比較する文字列。
)
{
    return ( text.compare( index_, length_, p_text_ ) == 0 );
}

```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲】 と 【指定文字列の指定範囲】 を比較する。( compare() )

inline bool Compare(
    const size_t index_,    // 比較する部分のオフセット。( この文字列の )
    const size_t length_,  // 比較する部分の文字数。( この文字列の )
    const WCHAR* p_text_,  // 比較する文字列。
    const size_t text_length_ // 比較する部分の文字数。( 指定文字列の )
)
{
    return ( text.compare( index_, length_, p_text_, text_length_ ) == 0 );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【指定範囲の部分文字列】 を切り出して返す。    ( substr() )
```

```
// ※ 【戻り値】 を参照にすると、 【0-カルのアドレス】 が返る。
```

```
inline std::wstring SubString( const size_t start_index_, const size_t length_ )
{
    return text.substr( start_index_, length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を追加する。    ( append() )
```

```
// ※ std::wstring::value_type は、 wchar_t 。
```

```
inline std::wstring& Add( const WCHAR* p_text_ )
{
    return text.append( p_text_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を追加する。    ( append() )
```

```
inline std::wstring& Add( const WCHAR* p_text_, const size_t length_ )
```

```

{
    return text.append( p_text_, length_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を追加する。                ( append() )

inline std::wstring& Add( const std::wstring& text_ )
{
    return text.append( text_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を追加する。                ( append() )

inline std::wstring& Add( const std::wstring& text_, const size_t start_index_, const size_t length_ )
{
    return text.append( text_, start_index_, length_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字】を末尾に追加する。            ( push_back() )

inline void AddChar( const WCHAR char_ )
{
    text.push_back( char_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定した文字】を、【指定した文字数】だけ追加する。( append() )

inline std::wstring& AddChar( const WCHAR char_, const size_t count_ )
{
    return text.append( count_, char_ );
}

// -----<OK><テスト済み>

```

```
// 【指定範囲の文字列】を追加する。(ポインタ版) (append())
```

```
// WCHAR src_text[] = L"かきくけこ";
```

```
// std::wstring added_text = t1.Add( src_text + 1, src_text + 3 ); // "きく" が追加される。
```

```
inline std::wstring& Add( const WCHAR* p_src_start_, const WCHAR* p_src_end_ )
```

```
{  
    return text.append( p_src_start_, p_src_end_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定範囲の文字列】を追加する。(イテレータ版) (append())
```

```
// std::wstring src_text( L"かきくけこ" );
```

```
// std::wstring::iterator itr = src_text.begin();
```

```
// std::wstring added_text = t1.Add( itr + 1, itr + 3 ); // "きく" が追加される。
```

```
inline std::wstring& Add( const Iterator src_start_itr_, const Iterator src_end_itr_ )
```

```
{  
    return text.append( src_start_itr_, src_end_itr_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列】を挿入する。 (insert())
```

```
inline std::wstring& Insert( const size_t index_, const WCHAR* p_text_ )
```

```
{  
    return text.insert( index_, p_text_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列】を挿入する。 (insert())
```

```
// text1.Insert( 1, L"かきくけこ", 3 );
```

```
// 2文字目に、"かきく" が挿入される。(引数3は、挿入する文字数)
```

```
inline std::wstring& Insert( const size_t index_, const WCHAR* p_text_, const size_t text_length_ )
```

```
{
    return text.insert( index_, p_text_, text_length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を挿入する。                ( insert() )
```

```
inline std::wstring& Insert( const size_t index_, const std::wstring& text_ )
{
    return text.insert( index_, text_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を挿入する。                ( insert() )
```

```
// std::wstring src( L"かきくけこ" );
// text1.InsertByRange( 1, src, 1, 2 ); // 2文字目に、"きく" を挿入する。
```

```
inline std::wstring& InsertByRange(
    const size_t      index_,
    const std::wstring& text_,
    const size_t      text_offset_,
    const size_t      text_length_
)
{
    return text.insert( index_, text_, text_offset_, text_length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を挿入する。                ( insert() )
```

```
// ※ 【指定したイテレータの指す位置までの文字列】 で初期化される。
//
// text1.Insert( text1.GetFirstItr() + 2 ); // 2文字目までの文字列になる。
```

```
// ※他のインスタンスのイテレータを渡すと可る。
// ※begin()で取得したイテレータをそのまま渡すと可る。( 1文字目は、begin() + 1 )
```

//・使い道がよくわからない。おそらく使うことはない。

```
inline Iterator Insert( Iterator itr_ )
{
    return text.insert( itr_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字】を挿入する。                ( insert() )
```

//・【イテレータで指定した位置】に、【指定した文字】を挿入する。

```
inline Iterator InsertByChar( Iterator itr_, WCHAR char_ )
{
    return text.insert( itr_, char_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を挿入する。            ( insert() )
```

//・上記に加えて、さらに【挿入する文字数】を指定できる。

```
inline void InsertByChar( Iterator itr_, WCHAR char_, const size_t count_ )
{
    text.insert( itr_, count_, char_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を挿入する。            ( insert() )
```

```
// text1.InsertByChar( 1, L'か', 3 );
```

```
//
// ・2文字目から、'か' が3文字、挿入される。 ("あかかかいうえお")
```

```
inline std::wstring& InsertByChar(
    const size_t index_,
```

```

        const WCHAR char_,
const size_t count_
    )
{
    return text.insert(index_, count_, char_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を挿入する。                ( insert() )

inline void InsertByRange( Iterator itr_, const WCHAR* p_src_start_, const WCHAR* p_src_end_ )
{
    text.insert( itr_, p_src_start_, p_src_end_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を挿入する。                ( insert() )

inline void InsertByRange(
        Iterator dest_start_itr_,
        const Iterator src_start_itr_,
        const Iterator src_end_itr_
    )
{
    text.insert( dest_start_itr_, src_start_itr_, src_end_itr_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】 を挿入する。                ( insert() )

// ・ Tinputiteratorには、読み取り専用のイテラタ型を指定する。

// STL::stringW t1( L"あいうえお" );
// std::string t2( "かきくけこ" );
// t1.InsertByRange<std::string::iterator>( t1.Getltr(1), t2.begin(), t2.end() );
//
// → "あきいうえお" とはならず、stringの箇所が文字化けしている。

```

// (要するに、挿入は成功したが、文字コードが異なるため、文字化けしている、)

```
template<typename TInputIterator>
```

```
inline void InsertByRangeEx( Iterator itr_, TInputIterator src_start_itr_, TInputIterator src_end_itr_ )
```

```
{  
    text.insert( itr_, src_start_itr_, src_end_itr_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【文字列の指定部分】を削除して返す。 ( erase() )

```
// text1.RemoveAt( 1, 2 );
```

// 2文字目以降の2文字が削除される。 ("あいうえお" → "あえお")

```
inline std::wstring& RemoveAt( const size_t index_, const size_t length_ )
```

```
{  
    return text.erase( index_, length_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【指定indexの1文字】を削除し、【次の文字のイテレータ】を返す。( erase() )

```
// text1.Remove( text1.Getltr( 1 ) ); // 2文字目が削除される。
```

```
//  
// ・ 2文字目が削除されたので、3文字目が2文字目に移動する。
```

```
// 戻り値のイテレータは、この文字を指している。
```

```
inline Iterator RemoveChar( Iterator itr_ )
```

```
{  
    return text.erase( itr_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【文字列の指定範囲】を削除し、【次の文字のイテレータ】を返す。( erase() )

```
// text1.RemoveByRange( text1.Getltr(1), text1.Getltr(2) );
```

// ・ 2文字目から3文字目の範囲 ( 2文字目 ) が削除される。



```
inline Iterator RemoveByRange( Iterator start_itr_, Iterator end_itr_ )  
{  
    return text.erase( start_itr_, end_itr_ );  
}
```

## 【wstring】 (ワイド文字配列) 2

---

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列】をクリアする。 (clear())
```

```
inline void Clear(void)
```

```
{  
    text.clear();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// L"" なら、true を返す。 (empty())
```

```
inline bool IsEmpty(void)
```

```
{  
    return text.empty();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列の指定範囲】をコピーする。 (substr())
```

```
// ※戻り値が参照でないのは、ローカルのアドレスを含んだ参照を返すためである。
```

```
// (ここを参照にすると、コンパイル時に警告が表示されるが、動作はする)
```

```
inline std::wstring Substring( const size_t index_, const size_t length_ )
```

```
{  
    return text.substr( index_, length_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列】をコピーする。 (コピーした文字数を返す) (_Copy_s())
```

```
// ・copy()が使いものにならないため、安全性の高い_Copy_s()を使用している。
```

```
// (この手の_s系メソッドで、コピー先とコピー元の要素数を指定しているのは、
```

```
// バッファオーバーランを防止するためである。)
```

```
inline WCHAR* Copy(void)
```

```

{
    size_t src_length = text.length(); // 元の文字数を取得しておく。

    WCHAR* p_dest = new WCHAR[ src_length + 1 ];
    // 先の文字列バッファを確保する。( +1 は、終端のNULL文字 )

    size_t wrote_length = text._Copy_s( p_dest, src_length + 1, src_length, 0 ); // する。
    //
    // p1: 先の文字列バッファへのポインタ。
    // p2: 先の文字列バッファの要素数。( 文字数 )
    // p3: 元の文字数。
    // p4: を開始するオフセット位置。( 元のindex )
    //
    // 戻り値: された文字数が返る。

    p_dest[ src_length ] = NULL; // 終端にNULL文字を入れる。

```

```

return p_dest;
}

```

```

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を交換する。 ( swap() )

```

```

inline void Swap( CStringW& text_ )

```

```

{
    std::wstring t1;
    text_.GetString( t1 );
    text.swap( t1 );
}

```

```

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字数】を変更する。 ( resize() )

```

```

// ・追加された要素は、0クリアされている。
// ( "あいうえお" → "あいうえお\0\0\0\0" )

```

```

// ・一般的には、NULL文字までが文字列とみなされるが、

```

// **length**で返る文字数には、**増加分も含まれている**。

// (ただし、NULL文字なので、表示はされない)

inline void **Resize**( const size\_t new\_length\_ ) // 新しい文字数。

```
{  
    text.resize( new_length_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【文字数】を変更する。 (resize())

// text.ResizeEx( 10, L'無' ); // → "あいうえお無無無無無"

inline void **ResizeEx**(

const size\_t new\_length\_, // 新しい文字数。

const WCHAR default\_char\_ // 新規要素は、この文字で初期化される。

```
)
```

```
{  
    text.resize( new_length_, default_char_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

// 【文字列】を置換する。 (replace())

// 引数**1**~**2**の指定範囲を、指定文字列に置き換える。

// (※一般的な、「検索→置換」とは別物)

inline std::wstring& **Replace**(

const size\_t index\_, // 置換範囲のオフセット位置。 (置換先)

const size\_t length\_, // 置換範囲の文字数。 (置換先)

const WCHAR\* p\_src\_text\_ // 置き換える文字列。 (置換元)

```
)  
{  
    return text.replace( index_, length_, p_src_text_ );  
}
```

// -----<OK><テスト済み>

```
//【文字列】を置換する。 ( replace() )
```

```
inline std::wstring& Replace(  
    const size_t    index_, // 置換範囲のオフセット位置。 (置換先)  
    const size_t    length_, // 置換範囲の文字数。 (置換先)  
    const std::wstring& src_text_ // 置き換える文字列。 (置換元)  
)  
{  
    return text.replace( index_, length_, src_text_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
//【文字列】を置換する。 ( replace() )
```

```
// STL::stringW text1( L"あいうえお" );  
// std::wstring text2( L"かきくけこ" );  
// text1.Replace( text1.Getltr(1), text1.Getltr(2), text2 ); // → "あかきくけこうえお"
```

```
inline std::wstring& Replace(  
    const iterator  start_itr_, // 置換範囲の始点イテレーター。 (置換先)  
    const iterator  end_itr_,   // 置換範囲の終点イテレーター。 (置換先)  
    const std::wstring& src_text_ // 置き換える文字列。 (置換元)  
)  
{  
    return text.replace( start_itr_, end_itr_, src_text_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
//【文字列】を置換する。 ( replace() )
```

```
// STL::stringW text1( L"あいうえお" );  
// text1.Replace( 1,2, L'■', 3 ); // → "あ■■■えお"
```

```
inline std::wstring& ReplaceByChar(  
    const size_t index_, // 置換範囲のオフセット位置。 (置換先)  
    const size_t length_, // 置換範囲の文字数。 (置換先)  
    const WCHAR src_char_, // 置き換える文字。 (置換元)
```

```

const size_t src_char_count_ // 置き換える文字の文字数。(置換元)
)
{
    return text.replace( index_, length_, src_char_count_, src_char_ );
}

```

// -----<OK><テスト済み>

// 【指定文字】に置換する。( replace() )

// STL::stringW text1( L"あいうえお" );

// text1.Replace( text1.Getltr(1), text1.Getltr(2), L'■' ); // → "あ■■■うえお"

inline std::wstring& **ReplaceByChar**(

const Iterator start\_itr\_, // 置換範囲の始点イテレーター。(置換先)

const Iterator end\_itr\_, // 置換範囲の終点イテレーター。(置換先)

const WCHAR src\_char\_, // 置き換える文字。(置換元)

const size\_t src\_char\_count\_ // 置き換える文字の文字数。(置換元)

```

)
{
    return text.replace( start_itr_, end_itr_, src_char_count_, src_char_ );
}

```

// -----<OK><テスト済み>

// 【文字列】を置換する。( replace() )

// 指定範囲を、指定文字列の先頭から指定文字数の部分文字列で置き換える。

// STL::CStringW text1( L"あいうえお" );

// std::wstring text2( L"かきくけこ" );

// text1.Replace( 1, 2, L"かきくけこ", 2 ); // → "あかきえお"

inline std::wstring& **ReplaceByRange**(

const size\_t index\_, // 置換範囲のオフセット位置。(置換先)

const size\_t length\_, // 置換範囲の文字数。(置換先)

const WCHAR\* p\_src\_text\_, // 置き換える文字列。(置換元)

const size\_t src\_length\_ // 置換範囲の文字数。(置換元)

```

)

```

```
{
    return text.replace( index_, length_, p_src_text_, src_length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列】 を置換する。 ( replace() )
```

```
// STL::CStringW text1( L"あいうえお" );
```

```
// std::wstring text2( L"かきくけこ" );
```

```
// text1.Replace( 1, 2, text2, 1, 2 ); // → "あきくえお"
```

```
inline std::wstring& ReplaceByRange(
```

```
    const size_t    index_,    // 置換範囲のオフセット位置。 (置換先)
```

```
    const size_t    length_,    // 置換範囲の文字数。 (置換先)
```

```
    const std::wstring& src_text_, // 置き換える文字列。 (置換元)
```

```
    const size_t    src_offset_, // 置換範囲のオフセット位置。 (置換元)
```

```
    const size_t    src_length_ // 置換範囲の文字数。 (置換元)
```

```
)
```

```
{
    return text.replace( index_, length_, src_text_, src_offset_, src_length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列】 を置換する。 ( replace() )
```

```
// STL::stringW text1( L"あいうえお" );
```

```
// text1.Replace( text1.GetPtr(1), text1.GetPtr(2), L"かきくけこ" ); // → "あかきくけこうえお"
```

```
inline std::wstring& ReplaceByRange(
```

```
    const Iterator    start_itr_, // 置換範囲の始点イテレーター。 (置換先)
```

```
    const Iterator    end_itr_, // 置換範囲の終点イテレーター。 (置換先)
```

```
    const WCHAR*    p_src_text_ // 置き換える文字列。 (置換元)
```

```
)
```

```
{
    return text.replace( start_itr_, end_itr_, p_src_text_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を置換する。 ( replace() )

// STL::stringW text1( L"あいうえお" );
// text1.Replace( text1.Getltr(1), text1.Getltr(2), L"かきくけこ" ); // → "あかきうえお"
```

```
inline std::wstring& ReplaceByRange(
    const Iterator start_itr_, // 置換範囲の始点イテレータ。 (置換先)
    const Iterator end_itr_, // 置換範囲の終点イテレータ。 (置換先)
    const WCHAR* p_src_text_, // 置き換える文字列。 (置換元)
    const size_t src_length_ // 置換範囲の先頭からの文字数。 (置換元)
)
{
    return text.replace( start_itr_, end_itr_, p_src_text_, src_length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を置換する。 ( replace() )

// STL::stringW text1( L"あいうえお" );
// WCHAR src[] = L"らりるれろ";
// t1.ReplaceByRange( t1.Getltr(1), t1.Getltr(2), src + 1, src + 3 ); // → "あらりうえお"
```

```
inline std::wstring& ReplaceByRange(
    Iterator start_itr_, // 置換範囲の始点イテレータ。 (置換先)
    Iterator end_itr_, // 置換範囲の終点イテレータ。 (置換先)
    const WCHAR* p_src_start_, // 置換範囲の始点が°イタ。 (置換元)
    const WCHAR* p_src_end_ // 置換範囲の終点が°イタ。 (置換元)
)
{
    return text.replace( start_itr_, end_itr_, p_src_start_, p_src_end_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を置換する。 ( replace() )
```

```
// STL::stringW t1( L"あいうえお" );
```



```
// STL::stringW t2( L"かきくけこ" );
// t1.ReplaceByRange( t1.Getltr(1), t1.Getltr(2), t2.Getltr(1), t2.Getltr(2) ); // → "あきうえお"
```

```
inline std::wstring& ReplaceByRange(
```

```
    Iterator    start_itr_,    // 置換範囲の始点イテレーター。(置換先)
```

```
    Iterator    end_itr_,      // 置換範囲の終点イテレーター。(置換先)
```

```
    const Iterator src_start_itr_, // 置換範囲の始点イテレーター。(置換元)
```

```
    const Iterator src_end_itr_   // 置換範囲の終点イテレーター。(置換元)
```

```
)
```

```
{
```

```
    return text.replace( start_itr_, end_itr_, src_start_itr_, src_end_itr_ );
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【文字列】を置換する。 ( replace() )
```

```
// STL::stringW t1( L"あいうえお" );
```

```
// STL::stringW t2( L"かきくけこ" );
```

```
// t1.ReplaceByRange<std::wstring::iterator>( t1.Getltr(1), t1.Getltr(2), t2.Getltr(1), t2.Getltr(2) );
```

```
    // → "あきうえお"
```

```
template<typename TInputIterator>
```

```
inline std::wstring& ReplaceByRange(
```

```
    Iterator    start_itr_,    // 置換範囲の始点イテレーター。(置換先)
```

```
    Iterator    end_itr_,      // 置換範囲の終点イテレーター。(置換先)
```

```
    TInputIterator src_start_itr_, // 置換範囲の始点イテレーター。(置換元)
```

```
    TInputIterator src_end_itr_   // 置換範囲の終点イテレーター。(置換元)
```

```
)
```

```
{
```

```
    return text.replace( start_itr_, end_itr_, src_start_itr_, src_end_itr_ );
```

```
}
```

## 【wstring】 (ワイド文字配列) 3

---

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。(find())

// STL::stringW t1(L"あいうえお");
//
// size_t result = text1.IndexOf(L'う', 0); // 要素[0]から検索する。
//
// if ( result == wstring::npos ) // 該当indexが無い場合は、trueになる。
// else // 今回は、要素[2]が'う'なので、2が返る。

inline size_t IndexOf( const WCHAR char_, const size_t start_index_ = 0 )
{
    return text.find( char_, start_index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字列】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。(find())

// size_t result = text1.IndexOf( L"えお", 0 ); // 3が返る。

inline size_t IndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_ = 0 )
{
    return text.find( p_text_, start_index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字列】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。(find())

// size_t result = text1.IndexOf( L"えお", 0, 4 ); // 4文字目まで判定する。(結果はnpos)
//
// ※ 4文字目の要素[3]には、'え'があるが、
// 5文字目の要素[4]の'お'が範囲外で判定されないため、nposを返す。

inline size_t IndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_, const size_t length_ )
```

```

{
    return text.find( p_text_, start_index_, length_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字列】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find() )

inline size_t IndexOf( const std::wstring& text_, const size_t start_index_ = 0 )
{
    return text.find( text_, start_index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字以外】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_first_not_of() )

inline size_t NotIndexOf( const WCHAR char_, const size_t start_index_ )
{
    return text.find_first_not_of( char_, start_index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字列以外】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_first_not_of() )

inline size_t NotIndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_ )
{
    return text.find_first_not_of( p_text_, start_index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定文字列以外】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_first_not_of() )

inline size_t NotIndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_, const size_t length_ )
{
    return text.find_first_not_of( p_text_, start_index_, length_ );
}

```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列以外】を検索し、【最初に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_first_not_of() )
```

```
inline size_t NotIndexOf( const std::wstring& text_, const size_t start_index_ )  
{  
return text.find_first_not_of( text_, start_index_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_of() )
```

```
inline size_t LastIndexOf( const WCHAR char_, const size_t start_index_ )  
{  
return text.find_last_of( char_, start_index_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_of() )
```

```
inline size_t LastIndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_ )  
{  
return text.find_last_of( p_text_, start_index_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_of() )
```

```
inline size_t LastIndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_, const size_t length_ )  
{  
return text.find_last_of( p_text_, start_index_, length_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_of() )
```

```
inline size_t LastIndexOf( const std::wstring& text_, const size_t start_index_ )
{
return text.find_last_of( text_, start_index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字以外】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_not_of() )
```

```
inline size_t NotLastIndexOf( const WCHAR char_, const size_t start_index_ )
{
return text.find_last_not_of( char_, start_index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列以外】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_not_of() )
```

```
inline size_t NotLastIndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_ )
{
return text.find_last_not_of( p_text_, start_index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列以外】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_not_of() )
```

```
inline size_t NotLastIndexOf( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_, const size_t length_ )
{
return text.find_last_not_of( p_text_, start_index_, length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列以外】を検索し、【最後に見つかった箇所の先頭index】を返す。( find_last_not_of() )
```

```
inline size_t NotLastIndexOf( const std::wstring text_, const size_t start_index_ )
{
return text.find_last_not_of( text_, start_index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字以外】を逆順に検索し、【最初に見つかった位置】を返す。( rfind() )
```

```
inline size_t IndexOf_Reverse( const WCHAR char_, const size_t start_index_ )
{
return text.rfind( char_, start_index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列以外】を逆順に検索し、【最初に見つかった位置】を返す。( rfind() )
```

```
inline size_t IndexOf_Reverse( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_ )
{
return text.rfind( p_text_, start_index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列以外】を逆順に検索し、【最初に見つかった位置】を返す。( rfind() )
```

```
inline size_t IndexOf_Reverse( const WCHAR* p_text_, const size_t start_index_, const size_t
length_ )
{
return text.rfind( p_text_, start_index_, length_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 【指定文字列以外】を逆順に検索し、【最初に見つかった位置】を返す。( rfind() )
```

```
inline size_t IndexOf_Reverse( const std::wstring& text_, const size_t start_index_ )
{
return text.rfind( text_, start_index_ );
}
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【内部的に確保される要素数】を返す。 ( capacity() )
```

```
// ・未設定の状態だと、要素数が設定されている。
```

```
inline size_t GetCapacity(void)
```

```
{  
    return text.capacity();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【内部的に確保される要素数】を変更する。 ( reserve() )
```

```
// ※wstringは、内部的にメモリ領域を多めに確保していて、この値は、その際の要素数。
```

```
// 多めに見積もっておけば、要素数が拡張された際の、再確保&再-をしなくて済む。
```

```
//
```

```
// ・この値は、wstring::capacity()で取得できる。
```

```
// ・多すぎる場合は、wstring::shrink_to_fit()で切り詰めることができる。
```

```
inline void SetCapacity( const size_t capacity_ )
```

```
{  
    text.reserve( capacity_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【先頭のイテレータ】を返す。 ( begin() )
```

```
inline ConstIterator GetFirstItr(void)
```

```
{  
    return text.begin();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【末尾のイテレータ】を返す。 ( end() )
```

```
inline Constlterator GetLastltr(void)
```

```
{  
    return text.end();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 逆順ル-フ° 時の【最初の要素([count-1])のイテ-タ】を返す。( rbegin() )
```

```
inline ConstRevlterator GetFirstltr_Rev(void)
```

```
{  
    return text.rbegin();  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// 逆順ル-フ° 時の【最後の要素([0])のイテ-タ】を返す。 ( rend() )
```

```
inline ConstRevlterator GetLastltr_Rev(void)
```

```
{  
    return text.rend();  
}
```

```
// -----
```

```
// #####
```

```
// 演算子のオーバーロード
```

```
// #####
```

```
// -----
```

```
// CString = instance + CString
```

```
inline std::wstring& operator+( std::wstring& text_ )
```

```
{  
    text += text_;
```

```
return text;
```

```
}
```

```
// -----
```

```
// instance += CString
```



```
inline void operator+=( std::wstring& text_ )
{
    text += text_;
}
```

```
// -----
```

```
// instance = CString
```

```
inline void operator=( std::wstring& text_ )
{
    text = text_;
}
```

```
// -----
```

```
// bool result = ( instance == CString )
```

```
inline bool operator==( std::wstring& text_ )
{
    return (text == text_);
}
```

```
// -----
```

```
// #####
```

```
// static 関数
```

```
// #####
```

```
// -----
```

```
// 【ワイド文字列】を、【Int32値】に変換して返す。( stol() )
```

```
//static inline int ToInt32(
```

```
//     const std::wstring text_,           // 変換する文字列。
```

```
//     const size_t    start_index_ = 0, // オフセット位置。
```

```
//     const int      base_ = 10        // 基数。規定値は10。( 10進数表記 )
```

```
// )
```

```
// {
```

```
//     return std::stol( text_, start_index_, base_ );
```

```
// }
```

```

//// -----
//// 【ワイド文字列】を、【UInt32値】に変換して返す。( stoul() )

//static inline unsigned int ToUInt32(
//          const std::wstring text_,          // 変換する文字列。
// const size_t start_index_ = 0, // オffset位置。
// const int base_ = 10 // 基数。規定値は10。( 10進数表記 )
// )
// {
//     return std::stoul( text_, start_index_, base_ );
// }

```

```

//// -----
//// 【ワイド文字列】を、【Int64値】に変換して返す。( stoll() )

```

```

//static inline __int64 ToInt64(
//          const std::wstring text_,          // 変換する文字列。
// const size_t start_index_ = 0, // オffset位置。
// const int base_ = 10 // 基数。規定値は10。( 10進数表記 )
// )
// {
//     return std::stoll( text_, start_index_, base_ );
// }

```

```

//// -----
//// 【ワイド文字列】を、【UInt64値】に変換して返す。( stoull() )

```

```

//static inline unsigned __int64 ToUInt64(
//          const std::wstring text_,          // 変換する文字列。
// const size_t start_index_ = 0, // オffset位置。
// const int base_ = 10 // 基数。規定値は10。( 10進数表記 )
// )
// {
//     return std::stoull( text_, start_index_, base_ );
// }

```

```
//// -----
```

```
//// 【ワイド文字列】を、【float値】に変換して返す。(stof())
```

```
//static inline float ToFloat(
```

```
//          const std::wstring text_,          // 変換する文字列。
```

```
//  const size_t    start_index_ = 0 // オフセット位置。
```

```
// )
```

```
// {
```

```
//     return std::stof( text_, start_index_ );
```

```
// }
```

```
//// -----
```

```
//// 【ワイド文字列】を、【double値】に変換して返す。(stod())
```

```
//// ・ 「long double」版のstold()には、「long」が付いているが、doubleと同じ64bit。
```

```
//static inline double ToDouble(
```

```
//          const std::wstring text_,          // 変換する文字列。
```

```
//  const size_t    start_index_ = 0 // オフセット位置。
```

```
// )
```

```
// {
```

```
//     return std::stod( text_, start_index_ );
```

```
// }
```

```
//// -----
```

```
//// 【double値】を、【ワイド文字列】に変換して返す。(to_wstring())
```

```
//static inline std::wstring FromDouble( long double value_ )
```

```
// {
```

```
//     return std::to_wstring( value_ );
```

```
// }
```

```
//// -----
```

```
//// 【long long値】を、ワイド文字列に変換して返す。(to_wstring())
```

```
//static inline std::wstring FromInt64( __int64 value_ )
```

```
// {
```

```
//      return std::to_wstring( value_ );
// }

//// -----
//// 【unsigned long long】 値を、ワイド文字列に変換して返す。( to_wstring() )

//static inline std::wstring FromUInt64( unsigned __int64 value_ )
// {
//      return std::to_wstring( value_ );
// }

// -----

}; // end class

}; // end namespace

// -----

#endif
```

## 【bitset】 ( ビットフラグ )

---

```
#pragma once
```

```
#ifndef _STL_BITSET_H_
```

```
#define _STL_BITSET_H_
```

```
#include <bitset>
```

```
using namespace std;
```

```
namespace STL
```

```
{
```

```
// =====
```

```
// ビットセットクラスの定義 ( std::bitsetのラッパー )
```

```
// ・ 「ビットセット」は、ビットフラグを扱いやすくしたコンテナ。
```

```
// ( ビット操作に慣れた人には、物足りない内容であり、通常ならマ知で事足りる。 )
```

```
// ・ テンプレート引数には、使用するビット数を指定する。
```

```
// ( たとえば、std::bitset<8> とした場合には、8bitフラグとなり、
```

```
// 0~7までの8つのビットを、bool型のフラグ配列のように使用することができる。 )
```

```
template<typename T>
```

```
class CBitSet
```

```
{
```

```
protected: // publicでもOK。
```

```
// -----
```

```
// データメンバ
```

```
std::bitset<T> bits; // ビットセット 本体。
```

```
public:
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// コンストラクタ
```

```
CBitSet(void) : bits()
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// コンストラクタ
```

```
CBitSet( const unsigned __int64 value_ ) : bits( value_ )
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// デストラクタ
```

```
~CBitSet(void)
```

```
{
```

```
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// 【ビットセット】を返す。
```

```
inline std::bitset<T>& GetBitSet(void)
```

```
{
```

```
    return bits;
```

```

}

// -----<OK><テスト済み>
// 【ビットセット】を格納する。

inline void SetBitSet( std::bitset<T>& bits_ )
{
    bits = bits_;
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexのビット】を、ONにする。          ( set() )

inline std::bitset<T>& SetOnAt( const size_t index_ )
{
    return bits.set( index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexのビット】を、OFFにする。          ( reset() )

inline std::bitset<T>& SetOffAt( const size_t index_ )
{
    return bits.reset( index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexのビット】の、フラグ値 ( 0か1 ) を返す。      ( test() )

inline bool GetValue( const size_t index_ )
{
    return bits.test( index_ );
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexのビット】に、フラグ値 ( 0か1 ) を設定する。  ( set() )

```

```
inline std::bitset<T>& SetValue( const size_t index_, const bool value_ )
{
    return bits.set( index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【すべてのビット】を、OFFにする。 ( reset() )
```

```
inline std::bitset<T>& SetOffAll(void)
{
    return bits.reset();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【指定indexのビット】を、反転する。 ( flip() )
```

```
inline std::bitset<T>& FlipAt( const size_t index_ )
{
    return bits.flip( index_ );
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【すべてのビット】を、反転する。 ( flip() )
```

```
inline std::bitset<T>& FlipAll(void)
{
    return bits.flip();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【いずれかのビット】がONなら、TRUEを返す。 ( any() )
```

```
inline bool IsAnyOn(void)
{
    return bits.any();
}
```



```
// -----<OK><テスト済み>
// 【すべてのビット】がONなら、TRUEを返す。          ( all() )
```

```
inline bool IsAllOn(void)
{
    return bits.all();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【すべてのビット】がOFFなら、TRUEを返す。          ( none() )
```

```
inline bool IsAllOff(void)
{
    return bits.none();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【ONになっているビットの数】を返す。                ( count() )
```

```
inline size_t GetOnCount(void)
{
    return bits.count();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【ビットの数】を返す。                                ( size() )
```

```
inline size_t GetBitCount(void)
{
    return bits.size();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
// 【符号なし32bit整数値】を返す。                      ( to_ulong() )
```

```
inline unsigned int ToUInt32(void)
{
```

```

        return bits.to_ulong();
    }

// -----<OK><テスト済み>
// 【符号なし64bit整数値】を返す。          ( to_ulong() )

inline unsigned __int64 ToUInt64(void)
{
    return bits.to_ulong();
}

// -----<OK><テスト済み>
// 【文字列】を返す。          ( to_string() )

// "00101010" といった文字列が返る。

inline std::string ToString(void)
{
    return bits.to_string();
}

// -----
// #####
// 演算子のオーバーロード
// #####
// -----<OK><テスト済み>
// 指定index_ のビット値を返す。

inline bool operator[]( const size_t index_ )
{
    return bits[ index_ ];
}

// -----<OK><テスト済み>
// 指定index_ の参照を返す。

```

```
inline std::bitset::reference operator[]( const size_t index_ )
{
return bits[ index_ ];
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// instance = CBitSet
```

```
inline CBitSet<T>& operator=( const CBitSet<T>& bits_ )
{
bits = bits_.GetBitSet();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// instance |= CBitSet
```

```
inline CBitSet<T>& operator|=( const CBitSet<T>& bits_ )
{
bits |= bits_.GetBitSet();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// instance ^= CBitSet
```

```
inline CBitSet<T>& operator^=( const CBitSet<T>& bits_ )
{
bits ^= bits_.GetBitSet();
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// ~instance
```

```
inline CBitSet<T>& operator~()
{
return ~bits;
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// instance << shift_bit_count_
```

```
inline CBitSet<T> operator<<( const size_t shift_bit_count_ )  
{  
return ( bits << shift_bit_count_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// instance >> shift_bit_count_
```

```
inline CBitSet<T> operator>>( const size_t shift_bit_count_ )  
{  
return ( bits >> shift_bit_count_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// instance <<= shift_bit_count_
```

```
inline CBitSet<T>& operator<<=( const size_t shift_bit_count_ )  
{  
return ( bits <<= shift_bit_count_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// instance >>= shift_bit_count_
```

```
inline CBitSet<T>& operator>>=( const size_t shift_bit_count_ )  
{  
return ( bits >>= shift_bit_count_ );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>
```

```
// bool result = ( instance == CBitSet )
```

```
inline bool operator==( CBitSet<T>& bits_ )  
{
```

```
return ( bits == bits_.GetBitSet() );  
}
```

```
// -----<OK><テスト済み>  
// bool result = ( instance != CBitSet )
```

```
inline bool operator!=( CBitSet<T>& bits_ )  
{  
return ( bits != bits_.GetBitSet() );  
}
```

```
// -----
```

```
}; // end class
```

```
}; // end namespace
```

```
// -----
```

```
#endif
```

「ハム太と作るC++ライブラリ1 STL編」

<http://p.booklog.jp/book/74234>

著者 : haseham

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/haseham/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/74234>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/74234>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ